

平成28年度 能美市立湯野小学校 学校評価

重点目標 (めざす姿)	具体的方策	主担当	【評価指標】 ＜成果指標＞＜努力指標＞ ＜満足度指標＞	【評価の根拠】 達成度判断基準	取組状況	評価	学校関係者評価者 による意見	今後の改善策
1	組織的な学校運営	①主任会議や分掌部会を計画的に行い、主任を中心とした組織的な学校運営の充実を図る。	【努力指標】主任会議・分掌部会が適切な頻度で行われ、協力・協働の組織的な学校運営がなされている。	・主任会議及び分掌部会が必要十分な頻度で開催されているか。 ・90%以上の教職員が主任を中心に組織的に学校経営に参画していると感じているか。	・計画していたものだけでなく、必要に応じて適宜、会議や部会を行い、組織的な学校運営が図られた。その結果、教職員が参画意識を持って学校経営ビジョンの具現化に努めることができた。(教職員アンケート:100%)	A	・民間企業も働き方を変えているので、学校も長時間仕事をするのはよくない。	・勤務時間については、今後工夫しながら改善していく。
		②日頃より教職員間で情報を共有し、問題行動の未然防止に努めるとともに、問題が生じた場合は早期に組織的な対応を行う。	【努力指標】児童理解の会及びいじめアンケートを毎月実施し、共通理解を図りながら早期に組織的な対応がなされている。 【成果指標】【満足度指標】思いやりの心が育ち、自分たちのクラスはいじめのないクラスだと感じている。	・教職員が問題行動やいじめに迅速かつ組織的に対応しているか。 ・85%以上の児童が自分たちのクラスが思いやりがありいじめのないクラスだと感じているか。(児童アンケート:90%)	・生徒指導委員会が主体となって思いやりのある学級づくりに取り組んだ。また、問題行動やいじめが生じたときには、生徒指導主事や特別支援コーディネーターを中心に対策(支援)会議を開くとともに、外部の関係機関との連携を積極的に行った。(児童アンケート:90%)	・実態はどうあれいじめのないクラスだと感じる児童85%の設定は低くないか、100%をめざすべきではないか。 ・一人で登下校している児童を見かける。	・いじめはいつ起こるかわからないという危機感をもってこれからも取り組みを継続していく。少しでもいじめがあったと疑われる場合、管理職にすぐに報告が上がる体制をとっている。また帰宅後や休業中に起こった件にも対応している。	
2	確かな学力の向上	①外部機関等の積極的活用により、校内研修を充実させ、教職員の授業改善を行い、児童の思考力、表現力の向上を図る。	【努力指標】全員が年1回以上授業を公開し、教師のしゃべり過ぎを慎み、児童が自ら考え、生き生きと表現するための効果的な工夫を継続的に行う。 【満足度指標】児童が、授業の中でよく考えたり表現したりする機会が多く、楽しいと感じている。	・授業において教師の言葉は必要最小限かつ意図的計画のものであり、児童の思考と表現力の伸長を実感している教師は90%以上であるか。 ・85%以上の児童が授業の中でよく考えたり表現したりする機会が多く、楽しいと感じているか。	・児童の思考力・表現力の向上のために、「児童が主体的に学ぶ授業～教師がしゃべりすぎない授業～」をめざした。年間を通じて計画的に、全教職員が公開授業を行い、授業改善に努めた。また、継続的に招聘した指導主事から具体的な助言をいただき、教職員全員で研鑽を図った。(教職員アンケート:84%、児童アンケート:82%)	B	・さまざまな細かい工夫ある取り組みをしていることが理解できた。	・授業の中で、児童が良く考えたり表現したりする機会を増やし、それを多くの児童が実感できるための方策を講じていく。 ・より効果的な授業を実践していくための具体的な手順を明確にし、検証を徹底する。
		②学力の現状把握と分析及び教育課程の完全履修を徹底し、学力向上プランの共通理解に基づいて組織的な取組を推進する。タイムマネジメントをはじめとした教師の基本的な授業力の向上を図る。	【努力指標】教師は、45分間のタイムマネジメントの工夫により、効果的な授業を継続的に進めている。 【満足度指標】児童は、国語(算数)の授業がよくわかると感じている。	・90%以上の教師が、45分間のタイムマネジメントの工夫により、効果的な授業を継続的に進めていると感じているか。 ・85%以上の児童が、国語(算数)の授業がよくわかると感じているか。	・研究推進委員会を中心に、全教職員で学力向上プランの実践を図った。児童につけたい力を45分の授業の中で確実につけるために、「児童の興味関心を高める課題提示の工夫」「児童の思考を促す教師の発問」等、ポイントを明確にして、授業改善に努めた。(教職員アンケート:89%、児童アンケート国語:87%、算数:90%)	・図書にはどんな種類の本が入っているのか ・公民館にも本が置いてあるがほとんど利用がない。ゲームに興じている。 ・能美市全体に電子化を呼びかけてはどうか	・子ども達の読書習慣には憂いている。今後はメディア生活改善を進めつつ、読書量はもとより良書の奨励を視野に入れながら、保・小・中とも連携して読書習慣の改善に努めたい。	
3	豊かな心と人間関係力の育成	①全児童が安心して過ごせる学級づくり・学校づくりに努め、児童の自己肯定感や他者を思いやる心情を育む。	【成果指標】児童は、クラス会議に主体的に参加し、学級の課題を解決しようとしている。 ・学級生活満足群を増やし、要支援群に対する個別指導を充実させる。	・85%以上の児童が、クラス会議に主体的に参加していると感じているか。 ・60%以上の児童が、学級生活満足群の位置にいるか。	・クラス内の問題について、積極的に話し合う児童が多く見られた。(児童アンケート:82%) ・経年変化を見ると、学級生活満足群にいる児童の割合は増加しているが、目標値には至らなかった。(QU検査:52%)	B		・クラス会議の良さを再認識しつつ湯野小ならではの意義ある方法で高い教育的効果を目指していく。 ・学級生活満足群の児童の割合は全国平均に比べると極めて高く、さらに経年変化をみると上昇傾向を示している。今後も高い水準を保つよう意識していく。
		②道徳の授業の充実をはじめ、教育活動全体に道徳的指導を行い、道徳的心情と道徳実践力を育む。	【努力指標】全学級担任が、道徳の授業改善のため創意工夫し、意図的に取り組み、道徳の授業を充実させ、教育活動全体に道徳教育を意識して指導している。	・90%以上の教員が道徳の授業に意図的に取り組み、教育活動全体にも道徳教育を意識しているか。	・道徳教育推進教師を中心に道徳の授業を充実させ、家庭にも道徳通信を発信した。また、自問清掃や教師・児童の言葉づかいなど、日頃の教育活動にも意識して道徳教育を行った。(教師アンケート:93%)	・図書にはどんな種類の本が入っているのか ・公民館にも本が置いてあるがほとんど利用がない。ゲームに興じている。 ・能美市全体に電子化を呼びかけてはどうか	・子ども達の読書習慣には憂いている。今後はメディア生活改善を進めつつ、読書量はもとより良書の奨励を視野に入れながら、保・小・中とも連携して読書習慣の改善に努めたい。	
		③読書活動を推進し、良書の推奨と貸出冊数の向上、授業における並行読書や調べ学習等の指導の充実を図る。	【成果指標】児童が学校図書館を積極的に利用し、貸出冊数が多い。 【努力指標】授業における本を利用した指導は充実している。	・学校図書館の一人平均の貸し出し冊数が各学年の目標に達しているか。 ・90%以上の教員が授業において本を利用した指導を計画通り行えたか。	・読書活動を推進した結果、1人当たりの平均貸出冊数が増加した。(昨年度64.1冊、今年度70.4冊) ・国語や理科、生活科の中で、図書を利用した授業実践が多く行われた。(教師アンケート:76%)	・シャトルランテストを項目に選ぶと、メンタル面も反映されるので逆効果になる可能性がある。 ・持久走大会は克己心を育てるのにふさわしい大会だと思う。ぜひ続けてほしい。 ・毎年治療率85%を維持することが大変なことであることがわかったが、改善につながる証しなので頑張ってもらいたい。	・メディア問題については、上記のとおり。また、家庭学習時間が伸びるための宿題や課題の出し方についてもっと詰めていく。	
4	健やかな体の向上	①基本的な生活習慣や体力に関する実態把握に基づき、必要な取組を適宜検証しながら進める。	【成果指標】睡眠時間、食習慣、ゲーム時間等について、児童の状況は良好である。 【成果指標】毎時間の体育の準備運動に3分間走を取り入れ、持久力を向上させている。	・課題となる実態に対し、適切な目標値を設定し、これを超える。 ・5月の各学年のシャトルラン計測値をもとに、年度内にこれを5ポイント以上超える。	・良好な生活習慣が児童に定着することをめざして、学級懇談会で話題にしたり通信を発行したりして、その重要性について家庭に発信したが期待値に達しない。 ・シャトルラン計測値は、1人平均2.25ポイント上昇した。	C		
		②学級指導や保健委員会の取組を充実させ、食後の歯磨きを推奨し、虫歯治療率の向上と罹患率低下を図る。	【成果指標】虫歯治療率が前年度より向上し、罹患率が低下している。	・年度内に虫歯治療率85%を達成したか。 ・虫歯罹患率が前年度より低下したか。	・虫歯治療率は現在84%である。 ・全校で食後の歯磨きを奨励した結果、虫歯罹患率は前年度より低下した。			
5	家庭・地域との連携	①宿題の出し方を意図的に工夫し、「家庭学習のすすめ」を配付してPTA・保護者と連携しながら家庭学習を一定時間行う習慣を身につけさせる。	【成果指標】学年に応じて定める目標時間以上、毎日家庭学習に取り組んでいる。	・毎日の学習時間が、学年目標に達していると答える保護者・児童の割合が85%以上であるか。	・毎学期、家庭学習調査週間を設け、家庭との連携を図りながら家庭学習の習慣化を図ったが、目標値には届かなかった。(保護者アンケート:63%、児童アンケート:71%)	C	・家庭学習の習慣化をはばんでいる要因の1つにメディア問題があるのでは。家庭の関わりも大きい。家庭へのよびかけをしているがなかなか保護者の方の足が向かないのは保育園も同じである。	・メディア問題については、上記のとおり。また、家庭学習時間が伸びるための宿題や課題の出し方についてもっと詰めていく。
		②PTAと連携しながら、児童会のあいさつ運動を展開し、家庭・学校・地域ですすんで元気にあいさつする児童を育てる。	【成果指標】家庭・学校・地域で、自らすすんで元気がよくあいさつする児童が育っている。	・家庭・学校・地域で、自らすすんで元気がよくあいさつしている児童の割合が85%以上であるか。	・学校、家庭、地域で元気にあいさつできることをめざして、児童会、家庭、PTAが一体となりあいさつ運動に取り組んだ。その結果、運動期間中は積極的な姿が見られたが、習慣化までには至らなかった。(児童アンケート:74%)	・あいさつの運動週間が終わったら、波が引くように静かになった感はあるが、あいさつは確実によくなってきている。あいさつをしない大人も原因。地域の人も子どもたちだけでなく努力しないと。	・よくなってきているということはこのこれまでの対策の成果と捉え、今後もさまざまな工夫で習慣化を図り、地域との協力もさらに進めていく。	
		③道徳や総合的な学習の時間において、地域教材やゲストティーチャーを活用し、家庭・地域と連携した取組を推進する。	【努力指標】全学級で、道徳の時間や総合的な学習の時間において、地域教材の活用や地域・保護者等のゲストティーチャーの活用に取り組み、生きた教材に触れる学習を行う。	・全学級において、道徳の時間及び総合的な学習の時間において、地域・保護者等のゲストティーチャーの活用を各1回以上行ったか。	・全学級で道徳や総合的な学習の時間において、地域・保護者等のゲストティーチャーを招いた授業を行った。様々な分野で活躍する人の話を聞くことで、児童は本物に触れる経験ができた。			